

とっとり 環境新世紀



体験編

大山山麓の標高8500mから海拔0mまで、自転車で駆け降りる「ダウンヒルツアー」に参加した。春風がほおをなで、サッと風を切る音だけが聞こえる心地よさ。「ずっとこの快走感に浸っていたい」。心が弾み、仕事でのストレスも吹き飛んだ。このツアーは自然体験施設「森の国」(大山町赤松)が2010年から始めたもので、ほとんどが下り坂のため、体力に自信のない女性や子どもでもすくに楽しめるとあって人気だ。

雲一つなく晴れた4月25日、中国地方最高峰の大山(1729m)は、前日の大雨でぬれた新緑の葉が、きらめいていた。

予約の際に「雨に降られても大丈夫な格好で」とアドバイスされ、黒のスパッツにサッカー用ハーフパンツを重ね、上着はウインドブレーカーで準備万端だった。気合も十分だ。インストラクターは、「森の国」社長の伊沢大介さ

大山ダウンヒルツアー

標高差850メートル風になる

ん(39)。大山町で育ち、東京で外資系の経営コンサルタント会社で働いたが、32歳の時に父親が運営する同施設を継ぐため、Uターンした。

すぐ、伊沢さんが絶景スポットに案内してくれた。青い空を背景に雪が残る大山北壁と標高1000m前後に生える西日本一のブナ林が目前に広がった。その神々しい姿に圧倒され、言葉を失った。古くから伯耆富士と呼ばれてきた理由がよくわかる。

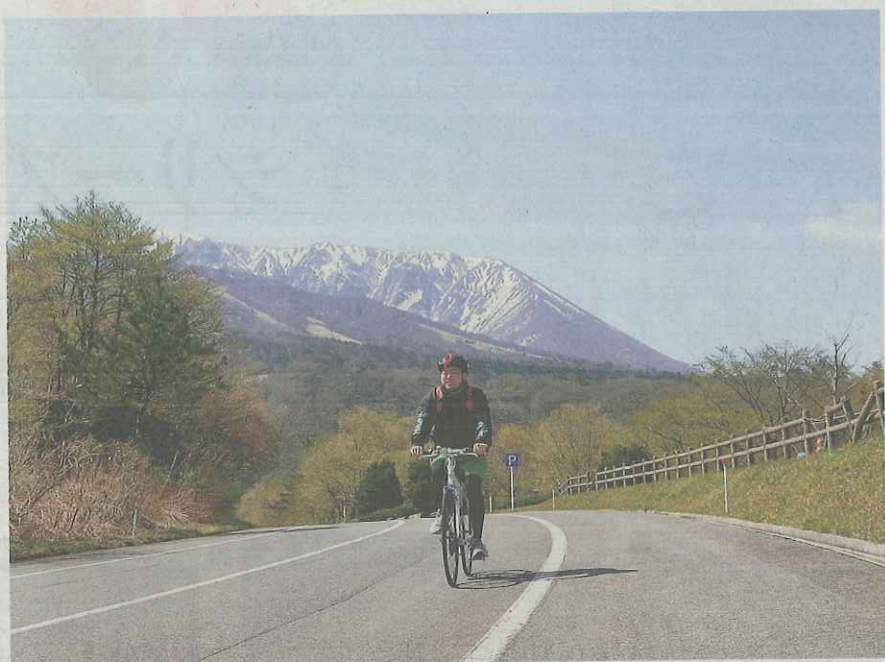
「反対側も見てくださいね」。伊沢さんに促されると、日本海が望めた。「ここからはDBSクルーズの定期貨客船や、米子空港を発着するソウル便の飛行機も見えるんです。鳥取はインターナショナルなんですよ、スタバはないですけど」

北に向かって進む道すがら、ヨーグルト工場や大山小の旧赤松分校などにも立ち寄り、牛や羊の牧場も見ることができた。県内外のゴルフ場などに出荷する芝生を育てるために雑草取りをしていた女性に「大変ですね」と声をかけると、「そつでもないですよ。良い天気で良かったね」と笑顔で答えてもらった。何気ないやりとりだったが、心が温かくなった。

牧歌的な風景を横目に走り続けると、白砂の海岸に到着。「お疲れさまでした」。総距離25km、あつという間に3時間半が過ぎていた。遠くに目をやると、青色の海に白波が映え、春の日差しで海面が輝いていた。「大気が澄むと、隠岐諸島が見えるんですよ」。伊沢さんが笑顔で教えてくれた。

再び勢いよく走り出すと、標高の高い場所の空気はひんやりと気持ちよい。道路にはほとんど車が通らない。貸し切り状態で最高の気分。途中、溪流・阿弥陀川に立ち寄った。一つの濁りも見られない清流で、濁いた喉を潤そうと、川の水に手を突っ込むと、雪解け水で本当に冷たかった。飲むと水が体にスツと染みこんでいくのを感じた。

新緑が色増し、本格的にレジャーやスポーツを楽しめる季節になった。慌ただしい日常生活を忘れ、しばし豊かな自然にふれてリフレッシュしてみるのはどうだろう。記者が気になるスポットを訪ねた。



大山や新緑の風景を楽しみながら自転車で快走する中村記者(大山町で)

ダウンヒルツアーはインストラクター付のAコース

(所要時間2時間30分、約17km)、Bコース(同3時間30分、約25km)、Cコース(同2時間30分、約17km)のほか、地図を持って自分たちで楽しむ計4種類がある。価格はAコース(4000円)B、Cコース(各5000円)。自分たちで楽しむコースはスタート地点までの送迎付きで2000円。ツアーは前日までの予約が必要。保険料200円が別途必要。問い合わせ、予約は森の国(0859・53・8036)へ。

メモ

◇